

◆ 平成 26 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 見沼ファーム 21

代表者：理事長 島田由美子

URL : <http://www.minuma-farm21.com/>

1. 活動が必要とされた状況

当会の水稲の肥料は、化成肥料、有機肥料、鶏糞が主体であり、形状は乾燥したペレット状です。これらを元肥として、田植前に田に散布します。撒き方は、肥料を肥料桶に入れて首に下げ、歩行しながら手で掴み散布します。このため広い田んぼほど労力負担が増え、また人手による散布ムラが発生します。会員の高齢化と相俟って、均一な肥料散布が困難になってきました。当会目標の見沼田んぼの水田保全を図り、見沼田んぼの自然を守るための一助として、自走式肥料散布機の導入が必要とされました。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

元肥散布は、代かき直前の最終田起し前に行います。以下のように、短期間に集中して各田んぼにて、自走式肥料撒機を駆使して、一部手撒きを併用して肥料散布を行いました。

田んぼ地域	実施時期	参加者	実施田んぼ枚数など
①上山口地区	4/23	3名	田んぼ4枚（公有地3.4反 援農5反）
②大谷地区	5/6	2名	田んぼ7枚（公有地3.4反 援農5反）
③見山地区	5/16	4名	田んぼ4枚（公有地1.5反 援農3.5反）
④片柳地区	4/19	3名	田んぼ3枚（公有地2.2反 援農1.5反）
⑤新堀江地区	4/27	4名	田んぼ1枚（ 援農2反）
計 5地区	延3日	延16名	計:田んぼ19枚（公有地10.5反 援農17反）

3. 活動の成果

導入されたカンリウ自走式肥料散布機「まきっこ」MF1002は、速度3.5Km、散布幅4.5mにて時間当たり3反以上の予想通りの散布効率を上げました。また肥料タヅが100Lと大きく2種類投入の肥料も機内回転混合により均一に散布されました。平成26年度の収穫は、稲穂成熟期の晴天高温のためか概して例年より多収穫でしたが、肥料の均一散布の効果も否めないと確信しております。

また手撒きに比べて負担及び効率の向上は期待通り著しく、作業の軽労化に大いに寄与しました。



4. 今後に残された課題

当機は、回転リット部やプラスチック部品個所も多く、肥料粉体による摩耗や汚れによる損傷が懸念されるので、使用後の保守点検に傾注します。

公有地田及び援農田の各種作業を円滑に遂行できたのも、サイサン環境保全基金の助成により各種の動力農機の導入が出来たお陰です。

